

### 主な内容

P1～3……特集「柏ゆかりの文人たち」  
P4………年始に急病になったら・  
催し・健康・市民相談



柏市はテニス競技の開催地です。



高島野十郎「さくら(布施弁天)」(福岡県立美術館 提供)

# 柏 ゆかりの 文人 たち

ふるさと人物探訪

昨年、柏は中核市となりました。今こそ都市化が進みましたが、昔は森や原野が広がり、多くの人々は豊かな自然の中で生活を営んでいました。古きよき柏に生まれ、志を成し遂げた人、自然を愛し、創作活動に打ち込んだ人がいます。そんな地域ゆかりの人たちを紹介いたします。



柏市長  
本多 晃

あけましておめでとうございませう。皆様には、二〇〇九年の新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

今年、柏市が中核市となって二年目を迎えます。県から移譲された業務について、柏市自身が責任を持って、質の高いサービスを提供できるように取り組めます。

昨年は、国内外において、市民が大活躍した年でした。北京パラリンピックでは国枝選手、齋田選手のメダル獲得、流経大柏高サッカー部の全国制覇は市民の皆さんに多くの感動を与えてくれました。

一方、中国製冷凍ギョーザ中毒、事故米の食用転売など食の安全が脅かされる事件が起きました。市内でも中国産冷凍インゲンや食品製造工場の井戸水の問題などが次々と発生しましたが、市に移譲された保健所が中心となり速やかに対応することができました。

また、保健所と柏市医師会、国立がんセンター東病院や東京慈恵会医科大学附属柏病院が協働し、治療だけでなく予防や早期発見、緩和ケアなど、がんの総合的な対策を推進する

プロジェクトも展開しています。沼南町との合併の際に約束した事業も進み、沼南庁舎の改修で、こども図書館と郷土資料展示室を開設することができました。

地球温暖化防止については、世界的な取り組みの必要性の中で、市は昨年、地球温暖化対策計画を作りました。省エネルギー活動や省CO<sub>2</sub>のまちづくりを進め、また、市役所では、平成24年度までに20%以上のCO<sub>2</sub>削減を目指します。

今年、総合的な保健医療福祉施設の整備、公設総合地方卸売市場の移転再整備、新中央図書館の整備、柏駅東口ペDESTリアンデッキの改修などの整備事業や、二〇一〇年の千葉国体テニス競技大会の開催に向けた準備を進めます。また、安全で安心な市民生活の確保、子育て支援の充実、健康・福祉施策の推進などに重点的に取り組めます。

今後、自立都市を目指して、これらの事業を進めるとともに、行政改革大綱に基づく効率的な市政運営に努めます。

今年が皆様にとりまして辛多き年になることをお祈りいたします。

# ふるさと人物探訪 柏ゆかりの文人たち

## 幕末に活躍した儒学者 芳野金陵

(よしのきんりょう・一八〇二〜一八七八年)

芳野金陵は、享和2年、松ヶ崎で医業を営む芳野南山のもとに生まれました。江戸から明治への激動の時代を生きた儒学者で、昨年注目された天璋院篤姫(一八三六〜一八八三)と同時代の人です。

江戸で家塾を開いていた金陵は、駿河田中藩の儒学者として任官改革に取り組み、藩の活性化に努めました。文久2年(一八六二)には、幕府直轄の学問所である、昌平坂学問所の儒官として抜てきさ



れ、安井息軒、塩谷岩陰とともに「文久の三博士」と称されています。同年には「生麦事件」や、皇女和宮と徳川家茂の婚儀が行われるなど、まさに動乱の時代です。明治元年(一八六八)、昌平坂学問所は明治新政府の管轄になりましたが、金陵は引き続き残るよう請われました。退官後は東京大塚に隠居して余生を送り、子弟の教育に当たりました。

ずいぶん  
ひろい原っぱだ  
いつぼんのみちを  
むしように  
あるいてゆくと  
ころろが  
うつくしくなつて  
ひとりごとをいうのが  
うれしくなる

## 素朴な心を紡いだ詩人 八木重吉

(やぎじゅうきち・一八九八〜一九二七年)



この詩が刻まれた碑が、国道6号線に面した県立東葛飾高等学校の脇にあります。詩人・八木重吉

豊かな自然を素材に、次々と詩を発表していきます。この詩碑に刻まれた詩もこのころ書きとめられ

## 少年の夢を描いたイラストレーター 小松崎茂

(こまつざきしげる・一九一五〜二〇〇一年)



「弾丸列車」(昭和ロマン館 提供)

少年時代、プラモデルに夢中になったお父さんたちの中には、このイラストレーターの絵に目を輝かせた人も多いのでは？

柏市に引越してきたのは、昭和26年、三十六歳の時。戦後の復興のさなかでした。

東京・南千住の生まれで、もともと日本画を学んでいました。緻密(ちみつ)な迫力あふれる画



風でイラストレーターに転向し、戦時中は戦車や飛行機など、戦意高揚のために使われました。終戦後、進駐軍に菓子をねだる少年たちの姿に胸を痛め、自分の絵で元気づけることができなかつたと考えます。雑誌の絵物語、プラモデルの箱絵と、寝る間も惜しみ、精力的に絵を描き続けます。

現在も広報かしわ毎月1日号の長寿コーナーになっている「おとなりさん」、第一回目に登場しました。たくさん少年たちに夢を与え、平成13年、八十六歳で生涯を終えましたが、今も、昭和ロマン館(松戸市)でその世界を見ることが出来ます。

## 書を極めた高僧 山崎弁栄

(やまざきべんねい・一八五九〜一九二〇年)

弁栄聖者、大正の法然上人と称された高僧山崎弁栄は、安政6年、鶴野谷地区の農家、山崎嘉平家の長男として生まれ、幼名を啓之助といいました。幼いときから勉強熱心で仏教に関心をもち十五歳のころからは、父親の農業を手伝いながら学問に励みました。二十一歳で、小宮東漸寺(松戸市・大谷

月間、念仏修行を行い、東漸寺に戻りお経七千三百三十四巻を読み通しました。同19年には、五香松戸市に説教所を復興し布教活動を開始。現在、医王寺近くに弁栄誕生の地として石碑が建てられています。

## 自然を好んだ孤高の画家 高島野十郎

(たかしまのじゅうろう・一八九〇〜一九七五年)



(片山撰三撮影)

野獸のように生きる……。そんな思いで自ら名付けたといわれるこの名前。その生きざまも、まさに自然ともなりました。

柏に移って来たのは七十歳になってから。写生に訪れた増尾の田園風景を気に入ったことだと伝えられています。電気もガスも水道も通っていない小屋を



萬福寺

### くり秘話

「米」に「日」を「し」に仏教的に「今」ると特陀人、い

### 小松崎茂・びっくり秘話

#### その1 みんなのあこがれ

1990年に発行された画集には石ノ森章太郎、ちばてつや、川崎のぼる、松本零士といった有名な漫画家たちが、「小松崎の絵物語を大いに愛読し、影響を受けた」といった賛辞の言葉を述べている。藤子不二雄(あ)に至っては、ペンネームを「小松原滋」にしてサインもまねしたほどだったという。

#### その2 気さくでパワフル

晩年になっても、足腰こそ弱っていたが語り口ははっきりしていて、インタビューを受けると2時間以上延々としゃべり続けた。たばこの灰を落とすくせがあり、ズボンはいつも穴だらけ。それでも一向に気にせず、相手にはおかない、自分が入れたコーヒーを何杯も振る舞うという、パワフルで人懐っこく、不思議なキャラクターの持ち主だった。

#### その3 人気ぶりを示す高額所得記録

多忙さに比例して収入も多くなり、柏町では、個人所得1位の年が何年も続いた。三昼夜ぶっ通しで仕事を続けたこともあり、昭和28年ごろに、画家の部の所得で全国第2位になって話題になった。



